こ　だ　ま　げ　ん　た　ろ　う

児玉源太郎

周南市美術博物館蔵

嘉永５年（1852）閏２月 25 日
～　明治 39 年（1906）７月 23 日

●明治時代の軍人・政治家として、日本の政治に大きな影響を与えました。
●１４歳のとき、児玉家を支えることになりました。
●日清戦争後、日本で伝染病が流行しないよう、何万人もの消毒に取り組みました。
●台湾総督として、鉄道や港を整え、産業を盛んにして、台湾の発展に尽くしました。
●日露戦争のとき、軍人として活躍しました。
●陸軍大臣のほか、内務大臣や文部大臣も務めました。
●徳山に図書館「児玉文庫」を作り、ふるさとの文化の向上に貢献しました。

児玉家を支える

●徳山藩の武士の家に生まれる。５歳のとき父が亡くなり、義兄・次郎彦の影響を受けて育ちました。藩校・興譲館（今の徳山小学校）に通いました。
●１３歳のとき、藩内の争いにより次郎彦が暗殺され屋敷も失いましたが、翌年、源太郎を当主として児玉家の再興が許されました。
●１７歳のとき、徳山藩士として幕府軍と戦い、その後軍人となる道を選びました。

生家跡に残る井戸

源太郎生誕の地公園（児玉文庫跡）

２０歳の頃

源太郎は、世の中が大きく変わっていくことを、どのように感じていたのだろう。

伝染病を防ぐ

●日清戦争が終わって日本へ帰ってくる軍人などが、コレラなどの伝染病を持ち込まないよう消毒する、難しい事業の責任者になりました。
●形式にとらわれないで、部下（後藤新平）を信頼して仕事を任せ、２０万人以上の人や船を消毒して、伝染病を防ぐことに成功しました。

消毒に必要な費用を尋ねられたので「１００万円いります」と答えたら、児玉さんは「１５０万円だそう。そうしたら伝染病を必ず防げるか」と言われ、驚いた。

後藤新平 談

※当時の総理大臣の月給は 800 円

源太郎は、伝染病を防ぐために何が一番大切と考えたのかな。

台湾を治める

●日清戦争のあと、台湾の総督になりました。
●後藤新平を部下として、鉄道や港を建設し、台湾全体の土地や人口を調べたほか、砂糖を作る会社を設立するなどして、台湾を豊かにしていきました。

台湾の総督になった頃の源太郎（右側）

児玉公園にある銅像
（原型は台湾にある銅像）

児玉総督は、頭の回転がとても速く、上質の砂糖を作る私の提案を、すぐに理解してくれました。
もし学問の道に進んだら、一流の学者になったでしょう。

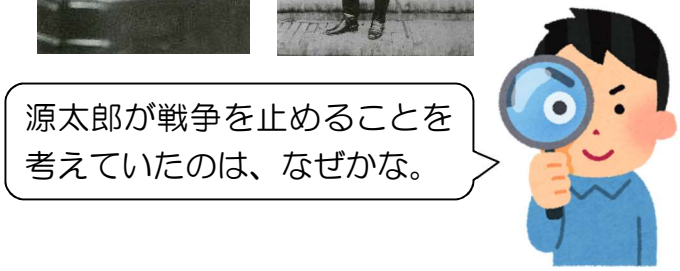
新渡戸稲造 談

今でも台湾で源太郎の銅像が大切にされているのは、なぜだろう。

日露戦争をたたかう

●「満州」（現在の中国東北部）や朝鮮半島に勢力をのばそうとした、ロシアと日本の関係が悪くなり、陸軍の満州軍総参謀長として、満州でロシアと戦いました。
●日本の国力を冷静に判断し、政府にロシアと講和するよう求めました。

日露戦争中の児玉源太郎



児玉文庫を開く

●生まれた家の跡地に、山口県内で２番目となる図書館「児玉文庫」を開きました。
源太郎が亡くなったあとも、多くの市民が利用しました。
太平洋戦争の空襲により焼失しましたが、貸出中だった本などが残っています。

昭和１０年(1935)頃の児玉文庫

中央図書館の展示コーナーと児玉文庫の本

児玉神社

児玉家が後に与えられた屋敷の跡に、大正１１年(1922)、徳山の人たちが源太郎をまつる神社を建てることを願い出て、翌年完成しました。のちに台湾から取り寄せた松が、大きく育っています。

児玉源太郎のことば

●少年時代を思い返して
　児玉家の当主として認められるまで、刀を差すことなどが許されなかった。
　友達が「浪人、浪人」とからかう声が、今でも聞こえる気がするくらいだ。
●徳山中学校（今の徳山高校）の生徒に向かって
　学生は、学校の教室に入れば一心に先生から知識を吸収し、運動場に出たら熱心に運動する。時間を無駄にしないことを、いつも心掛けないといけない。
●日露戦争が終わって
　世間の人は私をロシアとの講和を進めた弱腰と言っているそうだが、私はそれで満足している。

周囲の人からみた児玉源太郎

●長男・秀雄
　昔、父はフランス語を習うため塾へ通った。小さい教科書をとても大切そうに抱えて出かけていた姿を、今も忘れられない。
●次女・仲子
　私たち娘３人が父と徳山に帰省したときは、みんなで三五庵（徳山に源太郎が建てた小さな家）に行ったり、墓参りをしました。

家族写真（明治３７年）

●寺内正毅（軍人で、後の総理大臣）
　外国に向かう船のなかで、リンゴを食べたいと船員に頼んだけど、言葉が通じないので、小刀で皮をむくまねをしたそうだ。
●島田蕃根（源太郎の先生）
　源太郎に書の間違いを叱ったら「私は書家じゃないので」と言い訳をした。
　後々まで誤りが残ることだ、と言ったら、反省して以後は気を付けたようだ。
●白瀬矗（南極を探検した人）
　将来南極を探検したいと相談したら、自ら努力する人に道は開ける、と励ましてくれた。

生涯学習課ホームページ　　周南市立図書館ホームページ

写真：周南市美術博物館、国立国会図書館デジタルコレクション